

フロアボール 日本代表に

仙台大4年の畑中さん（にかほ市出身）

「世界大会でシュートを決めたい」と意気込む畑中さん



フロアボール日本女子代表に、にかほ市金浦出身の仙台大4年、畑中海音さん（22）が選ばれ、12月の世界大会に向けて鍛錬を積んでいる。ポジションは得点を稼ぐフォワード。「シュートを決めきるのが自分の役割。臆せず果敢に攻め続ける」と躍動を誓う。

1人の計6人でプレーし、プラスチック製のボールをスティックで操り、相手ゴールに入れて得点を競う。今年の世界大会会場はチェコ。日本女子は2023年の9位を上回る結果を残すことを目標に掲げている。畑中さんは小学で水泳、中学でバレーボール、本荘高校でボートに打ち込んだ。大学に入ったら、やったことのない新たなスポーツ

に挑戦してみたい」と、仙台大でフロアボール部に入部。持ち前のセンスや体幹の強さが光り、めきめきと力をつけてチームの大黒柱に成長した。

3年時にはキャプテンとしてチームを率い、コミュニケーションや連係を重視したプレースタイルを部内に浸透させた。現在の部員は28人（男子15人、女子13人）。部長の田口直樹体育学部准教授は「彼女の技術力と成長の早さはすぬけており、とりわけシュートの精度の高さには目を見張るものがある」と驚く。

4年生になって「競技に本気で取り組めるのは大学まで」と考えた畑中さんは、「大学の集大成として（世界大会の）日本代表入りにチャレンジしたい」と今年5月の選考会にエントリー。20人の代表枠に見事入

12月の世界大会、躍動誓う



練習は週4回。機敏な動きでシュートを狙う

り、世界の晴れ舞台への切符をつかみ取った。本番に向けて男子部員と共に3時間の練習を週4回ほど重ね、シュートの正確性やスティックさばきに磨きがかかる。

身長162センチ。体格やパワーでは海外選手に劣ると

自覚しているが「日本の持ち味である連係プレーやチーム力を生かした作戦で臨めば、きっと世界に通用するはず。常に『一歩先』を読んでプレーし、攻撃の流れに乗りながら貪欲にゴールを狙う」と力を込める。「代表入りは周囲の支えが

あったおかげ。感謝の気持ちを忘れずプレーし、自分より年下の世代に挑戦することの大切さを伝えたい」

郷土愛が強く、卒業後は地元に戻って就職する予定。「大学生になって秋田から離れて暮らしたら、古里がどれだけ自分に合ったかがえのない土地柄や環境だったのが分かった。ずっと地元に戻りたかった」。フロアボールは天候に左右されずに楽しめるため、「秋田でも広められる方法がないかを考えていきたい」と語る。

日本女子代表は、クラウドファンディングで遠征などの活動資金の寄付を呼びかけている。URLは、https://teamjapan-floorball.stores.jp/?id=https://camp-fire.jp/projects/868605/view?utm_campaign=cp_po_share_c_msg_mypage_projects_show

（小松嘉和）
〈随時掲載〉